

令和7年度 第3回学校運営協議会議事録

日 時	令和7年7月3日（木） 11：45～12：35
開催場所	下野市立南河内第二中学校 会議室
参加者	〔学校運営協議会委員〕 おおも り 由 貴 子 かねこ 友 紀 こすぎ まりこ こだま かずみ ちかざわ ゆきお 大森 由貴子 金子 友紀 小杉 満理子 兒玉 和実 近澤 幸雄 はやし こういち まわけ よしはる あきやま たかこ かさの やすお 林 宏一 真分 喜治 秋山 貴子 笠野 安雄 〔地域学校協働活動推進員〕 つぽやま ひとし 坪山 仁 〔事務局〕 なかざと あつし 中里 篤 (11 名)
議 題	1 学校長あいさつ 2 日程説明 3 授業参観 4 協議 (1) 学校の教育活動について ・体育祭や本日の授業参観での様子から (2) 二中学区三校での学校運営協議会の取組について ・合同学校運営協議会の開催・・・9月25日（木）に南河二中にて ・小中合同クリーン活動の実施・・・11月18日（火） (3) 長袖運動着（ジャージ）の名称表示について 5 学校からのお知らせ ・今後の改修・修繕工事について ・今後の学校行事、教育活動について 6 給食試食会
議 事	4 協議 (1) 学校の教育活動について（本日の授業参観について） 大 森 男子生徒がよく発言していた。教室にたくさんの掲示物が貼ってあって、視覚的で良いと感じた。理科や英語の授業でも視覚的な映像があって良かった。また、生徒達のロッカーの中も整頓されていた。生徒たちの雰囲気も良く仲が良さそうに感じた。集団の中に入れていない子も見受けられたが、みんな一生懸命に取り組んでいた。 兒 玉 興味深い学習内容だった。体育祭では堅苦しく感じたが、今日の授業は自由な感じがして良かった。「ねらい」とかを掲げ、授業の目的をはっきりとしていて良かった。

近 澤	意欲的に取り組んでいて良かった。先生方も個性を生かして授業に取り組んでいた。教室環境なども整えられていて良かった。
真 分	タブレットを使った授業ができていて良かった。生徒と先生が一体となって授業に臨んでいて、楽しい雰囲気で良かった。
林	タブレットを使いこなしていて素晴らしい。時間を区切って考えさせるなど、メリハリのある授業で良かった。グループでの話し合い活動でも、自分の意見をしっかりと述べていて賢いなと感じた。
坪 山	今日のねらいをはっきりと示していて良かった。グループ活動では男女関係なく発表できていて良かった。一部、声が小さい生徒がいた。
小 杉	昔と比べると教科書がカラフルでいい。タブレットをふんだんに使って授業が行われていた。昔の美術の授業との違いを感じた。若い先生が増えて、生徒達が話しやすい雰囲気を感じた。生徒全員がしっかりと参加していて良かった。
金 子	体育祭はいきいきと楽しそうに取り組んでいたのが良かった。普段の生活では見られないような姿がありとても良かった。
兒 玉	今日の様子は楽しそうで良かったが、受験勉強のための学習との兼ね合いはどのようなかなと疑問に思った。理科の授業で動画を撮っていましたが、それは配信しているのか。
秋 山	欠席している生徒のために配信している。
中 里	(2) 二中学区三校での学校運営協議会の取組について 毎年、各校の取組を発表している。校長・教頭・教務・PTA 会長金子さん・委員長小杉さんが参加する予定。そこで発表するためにご意見をいただきたい。
小 杉	クリーン活動を通して、地域との関わりを継続していきたい。あいさつ運動も小中で行っている。他にも何かご意見等あれば聞かせていただきたい。
大 森	クリーン活動、あいさつ運動、小中音楽交流と行っていて、これ以上何か始めるのは時間的に難しいかなと思う。
金 子	文化祭で小学生や地域の方々との関わりがある。地域の方にも参加していただき身近に感じてほしい。
兒 玉	自治会と学校がもっとつながりたいと考えている。現在、安全部が地域のパトロールを実施する方向で話を進めている。
中 里	(3) 長袖運動着（ジャージ）の名前表示について アンケートの結果、生徒は刺繍が9割で、保護者は刺繍が6割程度であった。その辺を踏まえてご意見をいただきたい。

金 子	リサイクルを考えたら、ゼッケンタイプがいいのではという意見が一部の保護者からあり、そこを考えるとゼッケンに変えてもいいかなと思うこともある。
小 杉	この問題はどちらの意見も言い分があるので、どちらにするか決めがたいことかなと感じる。
中 里	ボランティアの方に刺繍を外してもらうところまでやっておいていただくのはどうでしょうか
大 森	何でもかんでもボランティアという考え方はどうかと思うこともある。
金 子	様々な意見はあるが、アンケート結果を重視して、意見が多かった刺繍でいくべきだと思う。販売する際に口頭で刺繍付け替えのお願いをするようにする。
兒 玉	購入した方に刺繍代も含めて支払ってもらい、刺繍が終了したら商品と引渡しという形をとれば刺繍が違うという問題は解決するのではないかと思う。
秋 山	様々な意見を参考にしながら、最終的には学校として判断し決める。決めたからにはそれを継続していきたい。